

清、英領  
道路の比  
較南北の準  
備地

亞細亞大陸の脊梁たる崑崙及ヒマラヤの兩山脈を跋渉せざるべからず。其崑崙山系中なる喀喇崑崙嶺は、清國並に印度カシミヤとの國境たると共に、街道第一の高嶺とす。嶺北即ち清領内は、道路を修繕すること無きが故に、嶮惡言語に絶し、嶺南即ち英領印度内は、不十分ながらも、逋に修理行はれて、比較的通過に便に、レーヌリナガル間に至つては、修理能く行届き、馱獸路としては先づ可なりとす。

新疆よりするものは、葉爾羌にて、カシミヤよりするものは、レーにて越山の準備を整ふべく、馱載量は約八貫目を限度とし、乘馬、馱馬は必要數の約二割多くを携行し以て不時の用に備へ、天幕は勿論、約一箇月半の人馬糧食を用意し、防寒装具は、時季の如何に拘らず、十分の準備を怠るべからず。秣は容積多き爲め、到底携帶を許さず、沿途僅に生ずる雜草或は灌木の芳芽とに頼りて、不十分ながら満足せざるべからず、燃料は灌木、草根又は馬糞を拾集せば、纔に炊爨の用を辨すべきも、煖を取るには供するに足らず、飲料は概ね之を得べく、流水なき處に於ては、氷を溶せば、些も不足を感ずること無し。

乘馬及幕  
營地

馬は高山帶の産に限り、平地の産は通過の見込少なく、予は有名なるバダクシヤ